

軌道事故での迅速な救助・避難行動を確認



立山砂防工事専用軌道(通称「トロッコ」)には、富山県と立山カルデラ砂防博物館が主催する「立山カルデラ砂防体験学習会」など工事関係者以外の方々が年間約2千人乗車しています。

こうした方々がトロッコ乗車中での事故発生時に迅速な対応を図れるよう事故対応訓練を毎年実施しています。本年の訓練は平成21年から11回目の訓練として、案内者等の役割分担の確認、速やかな現状把握と事務所対策本部との情報共有、負傷者への救護と参加者への安全確保と避難行動が円滑に行えるよう実働訓練と関係機関との情報伝達を実施しました。

訓練は、関係機関及び軌道関係受注者など36名が参加し、訓練後の反省会においては、反省点、改善点などの意見を出し合っており、安全でかつ、迅速な行動が行える態勢づくりを確認しました。

日時：令和元年7月29日(月) 10:00~12:00

訓練場所：訓練軌道0.35kp付近

(千寿ヶ原緑地公園駐車場付近)

参加機関：立山砂防事務所 富山県砂防課
(公財)立山カルデラ砂防博物館
立山町消防本部
立山・神通砂防スペシャルエンジニア
軌道運行受注者

救助・避難実働訓練・情報伝達訓練の様子



現地案内者、トロッコ運行担当者との情報共有



トロッコ乗車者への状況説明と行動予定を伝達



レスキューカートでの歩行不能負傷者の搬送



車両に落石が直撃し負傷者が発生と想定



負傷者への声かけによる体調変化を観察



歩行可能者の避難誘導並びに行動



関係機関が参加した合同事故対策本部情報共有と行動予定を確認